

磯辺地区学校適正配置地元代表協議会委員からの意見・要望等

協議会委員名簿順に記載

委員名	委員からの意見・要望等	市教委としての考え方・対応
藤岡委員	<p>磯辺地区は中学校 1 校、小学校 2 校の考えは同意を得ていると思う。配置をどう進めていくかの検討に入ってもよいのではないかと。</p> <p>現在の学校の配置は、将来を見据えた考えで配置したのかが疑問である。適正配置は必要、ただし、県企業庁は平成 24 年度中には解散となると、現在の磯辺地区の企業庁所有空き地はすべて売却対象となり、住宅建設が行われる可能性が大きい。このことを考えておく必要がある。</p> <p>2 年間程度で適正配置の結論を出すことになっている。平成 21 年 3 ~ 4 月には役員の変更があり、委員が変わると協議会の運営に支障が出ると考えられる。できれば、現委員は結論が出るまで継続することを望む。</p>	<p>学校適正配置につきましては、将来を見据えた取り組みにしていくことが重要であると認識しております。子どもたちのよりよい教育環境整備と教育の質の充実のために、本協議会の中で、十分に協議していただきたいと考えております。</p>
大浦委員	<p>現状認識が大切である。議論を進める上で問題点が多岐にわたっており、議題の絞込みと議論を進める上である程度のタイムスケジュールが必要である。</p> <p>学校の適正配置が先ではなく、適正規模の必要性が先に論じられることが大切である。次のような観点で検討を進めたい。 小規模校の今後 適正規模校のメリット、必要性の確認 適正配置の問題（保護者の意見） 適正規模化を選択した場合の諸問題の洗い出し、解決策</p> <p>今年中に現状の議論、適正規模化が子どもたちの教育上最適であるとの共通認識が必要。現状維持を選択する委員も多いと思うが、あくまでも子どもたちの教育の立場での議論に特化すべき、地域との関連は今年中の議論の外に置く。</p>	<p>子どもたちのよりよい教育環境整備と教育の質の充実のために、本協議会の中で、十分に協議していただきたいと考えております。</p>
木下委員の代理	<p>自分の子どもや孫が今の現状で満足しているからよいのではなく、長期的に先のことを考え、中学校を含めた磯辺地区の校区の見直しが必要だと思う。適正規模のメリットを保護者や地域の方にアピールした方がよいのではないかと。</p> <p>今回の資料で小規模校、大樹規模校のメリット、デメリットや適正化の必要性がよく理解できた。”小規模校のメリットを残した適正配置”という言葉が心に残った。</p> <p>協議会では、自治会の方のパワーに学校代表者が押され気味だったので、現在実際二小・中学校に通わせている親としての意見をはっきりと言えるとよいと思った。</p>	<p>少人数指導のメリットは十分に認識しております。適正規模にすることにより、より一層充実した教育環境をつくっていくよう、議論していただきたいと考えております。</p>
西村委員	<p>まだまだ大きな問題があるので、もっと議論が必要。各所属の意見も吸い上げるべきだろう。</p> <p>述べられている通りだと思う。ただ法令は古すぎて役立つ（現在の状況にあてはまる）とは思えない。</p>	<p>「学校教育法施行規則」第 17 条と「国庫負担法施行令」は、昭和 33 年にそれぞれ条文化及び制定されたものです。法令で 12 ~ 18 学級という基準が定められたのは約 60 年前ですが、もし現実にそぐわない基準であれば改正されていたと考えられます。また、法令はあくまで参考であり、千葉市としても、第 2 次千葉市学校適正配置検討委員会での答申を受け検討した結果、12 ~ 24 学級が適正な規模として実施方針に定めております。</p>
石毛委員	<p>小規模校のメリットとして、先生の目が行き届き、アットホームな点はぜひ残してほしい。</p> <p>統合した場合、1 学級あたりの人数を少なくし、学級数を増やすことができればよいと思う。小規模校のメリットが生かし、よりきめ細かな指導が受けられる点で統合のメリットが生まれる。</p> <p>協議会の内容について、学校や保護者への伝達方法に不安がある。何をどこまで伝えるのかは、各学校でばらばらでよいのか。教育委員会からの詳しい指示があるとありがたい。</p>	<p>少人数学級のメリットである「きめ細かな指導」を生かしながら、学校規模の適正化を進められるように、今後、委員の皆様とも十分に協議し、教育委員会としても最大限努力してまいりたいと考えております。本協議会で提示した資料につきましては、教育委員会のホームページで公表いたしますが、保護者会室等に閲覧コーナーを設けて多くの保護者の方に見ていただくことも考えられます。</p>
相川委員	<p>今年度新たに役員となり、課題がどのようなものかの引継ぎがあまりされていないため、共通理解に時間がかかり、時間のロスとなってしまうことが残念である。配布された資料が人目見ただけでわかるような工夫（大きな文字、図等）がなされていれば、前回と同じ質問とならず、課題についての議論が進められたのではないかと。</p> <p>低学年であれば、学校が遠いことが危険にさらされる状況が増え、保護者の心配は大きい。登校班の編成やセーフティウォッチャーの増員が必要となり、地域住民の協力が必要不可欠である。</p> <p>集団が増えることへのストレスへの心のケアも必要となるだろう。しかし、高学年の児童や中学生であれば、クラブ活動、部活動、委員会活動等の活動の場が広がり、責任を持って行動する場も増えるだろう。</p> <p>一中は、校則がなく、生徒一人ひとりの自主性、責任が尊ばれ、とてもよい環境なので、そのよさが統合により消えないよう、二中にとってもよさが生かされるように校風を築いていかなければならないと思う。</p> <p>どのように保護者に伝えていき、意見を汲み取っていけばよいのか、各委員にかかっていることで、とても頭を悩ませている。</p>	<p>学校適正配置は、「子どもたちのよりよい教育環境整備と教育の質の充実」のために行うものです。子どもたちのために何が 필요한のかを本協議会の中で、十分議論していただきたいと考えております。</p>